



【AVS 大気精錬時】



【AVS 真空精錬時】

2008年3月期決算説明会

2008.5.27

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

ご挨拶

常務取締役 杉森 一太

本日のアジェンダ

1. 2008年3月期決算サマリー

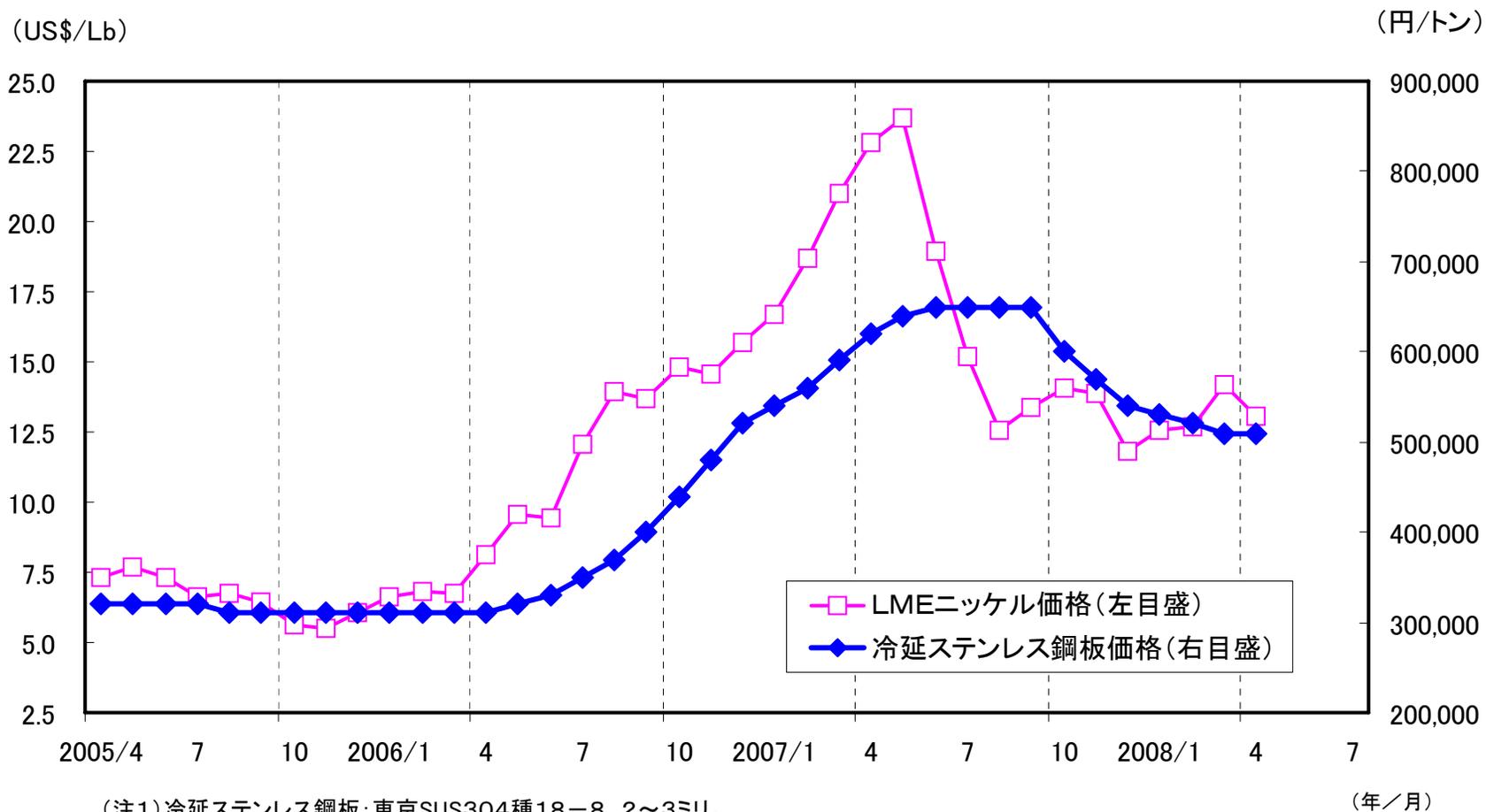
2. 中期経営計画(2008年4月～2011年3月)

＜参考＞主要データ(連結ベース)

2008年3月期の決算ハイライト

- ▶ 売上高・経常利益ともに史上最高を更新。
 - ・但し利益は上期に集中。
- ▶ 一般材部門は、原料価格に見合った製品販売価格の追求により収益を確保。
- ▶ 高機能材部門は、売上高が上昇基調を維持し、商品構成が多品種化。

ニッケル・ステンレス価格(月次)の推移



(注1)冷延ステンレス鋼板:東京SUS304種18-8、2~3ミリ。

(出所)鉄鋼新聞。

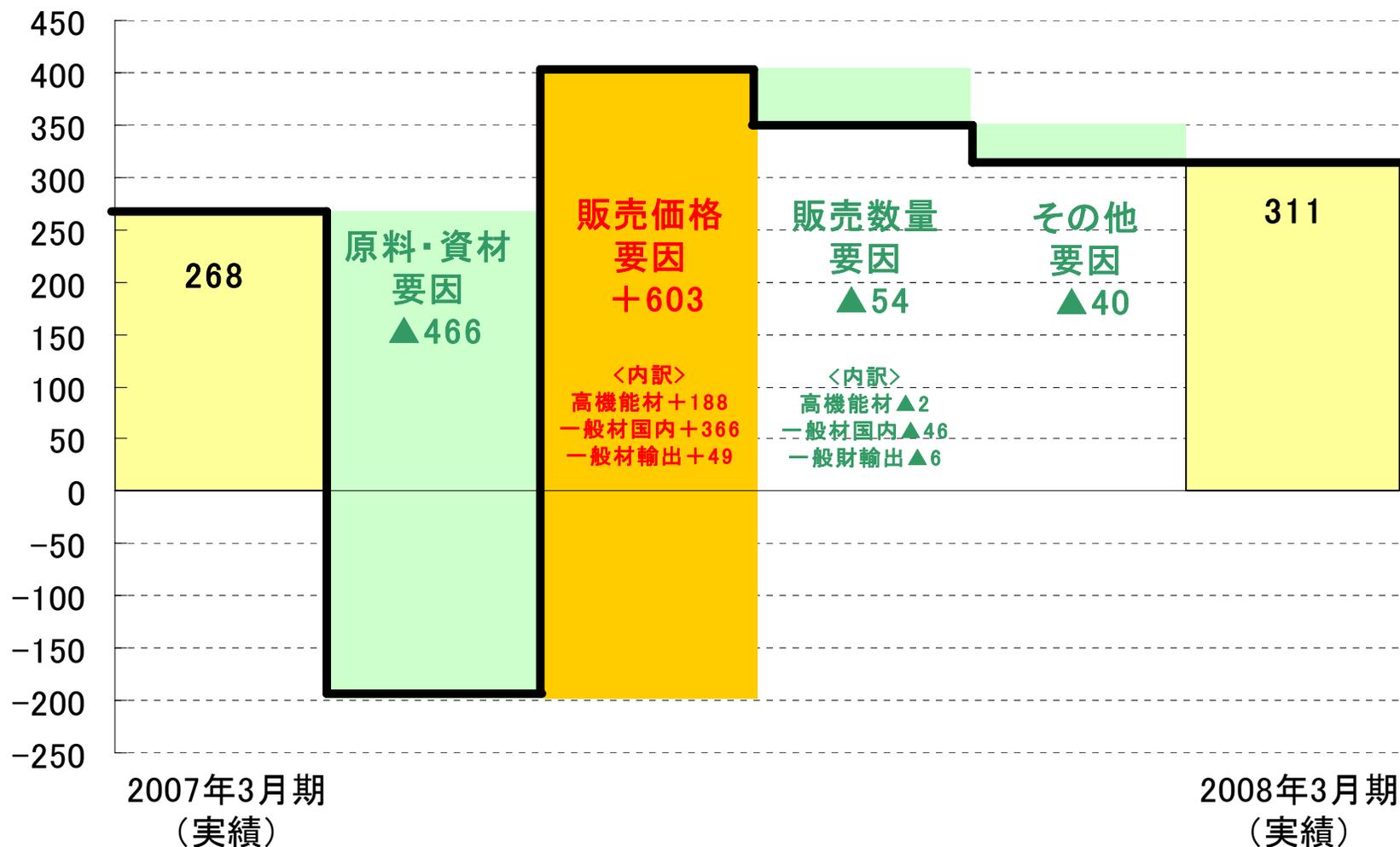
損益計算書 連結 概要

	2007年3月期 通期実績 (億円)	2008年3月期 通期実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	(中期経営計画) 2008年3月期 (億円)
売上高	1,949	2,487	538	27.6	1,509
営業利益	268	311	43	15.9	116
経常利益	239	293	54	22.7	87
当期純利益	153	175	22	14.6	55
ROA(%)	15.0	16.1			
自己資本比率(%)	27.8	35.7			
高機能材部門 売上高比率(%)	27.8	30.5			

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資本

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2007年3月期14.02US\$/Lb、2008年3月期15.47US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(通期比較:億円)



貸借対照表 連結 概要

	2007年3月末 (億円)	2008年3月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2007年3月末 構成比 (%)	2008年3月末 構成比 (%)
現金・預金	88	51	▲ 36	4.5	2.7
売掛債権	435	394	▲ 41	22.2	20.5
棚卸資産	509	500	▲ 9	25.9	26.0
その他流動資産	26	27	1	1.3	1.4
固定資産	902	950	48	46.0	49.4
【資産合計】	1,960	1,922	▲ 38	100.0	100.0
借入金・社債	730	603	▲ 127	37.2	31.4
その他負債	679	627	▲ 52	34.6	32.6
【負債計】	1,409	1,230	▲ 178	71.9	64.0
【純資産計】	551	692	141	28.1	36.0

キャッシュフロー計算書 連結 概要

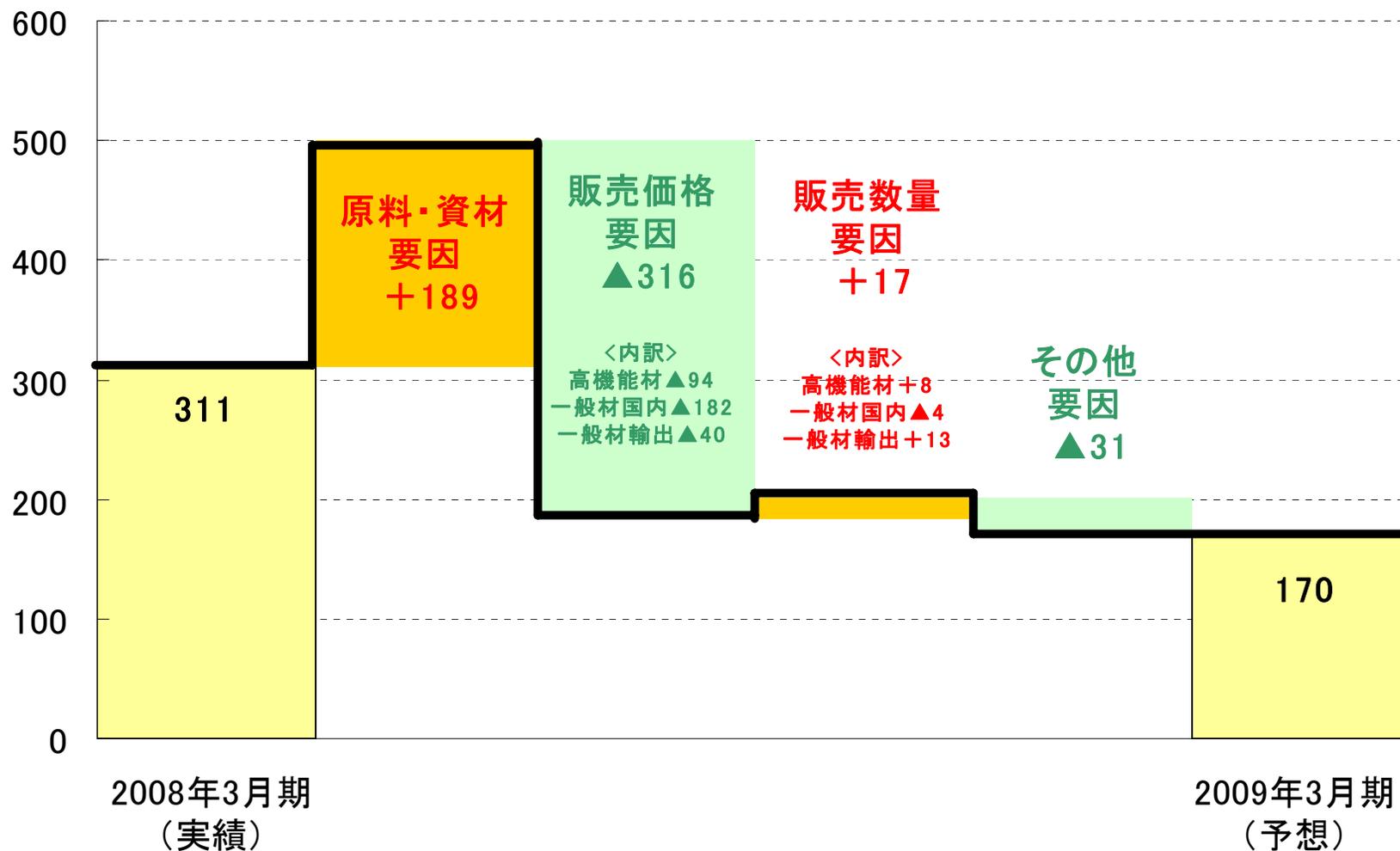
	2007年3月期 通期実績 (億円)	2008年3月期 通期実績 (億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	55	227	171
税金等調整前当期純利益	233	288	56
減価償却費	42	50	9
売上債権の増加額(△)又は減少額	▲ 142	41	183
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 149	9	158
仕入債務の増加額又は減少額(△)	94	▲ 27	▲ 121
法人税等の支払額	▲ 36	▲ 134	▲ 98
その他	14	▲ 2	▲ 16
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 45	▲ 120	▲ 75
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 44	▲ 98	▲ 54
その他	▲ 2	▲ 23	▲ 21
フリー・キャッシュフロー	10	107	97
財務活動によるキャッシュフロー	10	▲ 143	▲ 154
長短借入金の純減少額(△)	17	▲ 127	▲ 144
その他	▲ 7	▲ 17	▲ 10
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	22	▲ 36	▲ 58

2009年3月期連結業績予想

	2008年3月期	2009年3月期			中期経営計画 2011年3月期 (億円)
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	
売上高	2,487	2,260	▲ 227	▲ 9.1	2,380
営業利益	311	170	▲ 141	▲ 45.4	210
経常利益	293	150	▲ 143	▲ 48.9	180
当期純利益	175	110	▲ 65	▲ 37.2	105

(前提)2009年3月期ニッケルLME期中平均価格:13US\$/Lb、為替レート105円。

営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



高機能材販売におけるポイント

- ニッケル価格が乱高下するなかでも売上高は上昇維持
 - ・原材料価格に連動した販売価格の徹底
 - ・「高単価商品」へのシフトによる平均単価の上昇
- 商品構成における多品種化 → リスク分散効果
 - ・用途別で売上高の一定割合以上を占める部門が増加

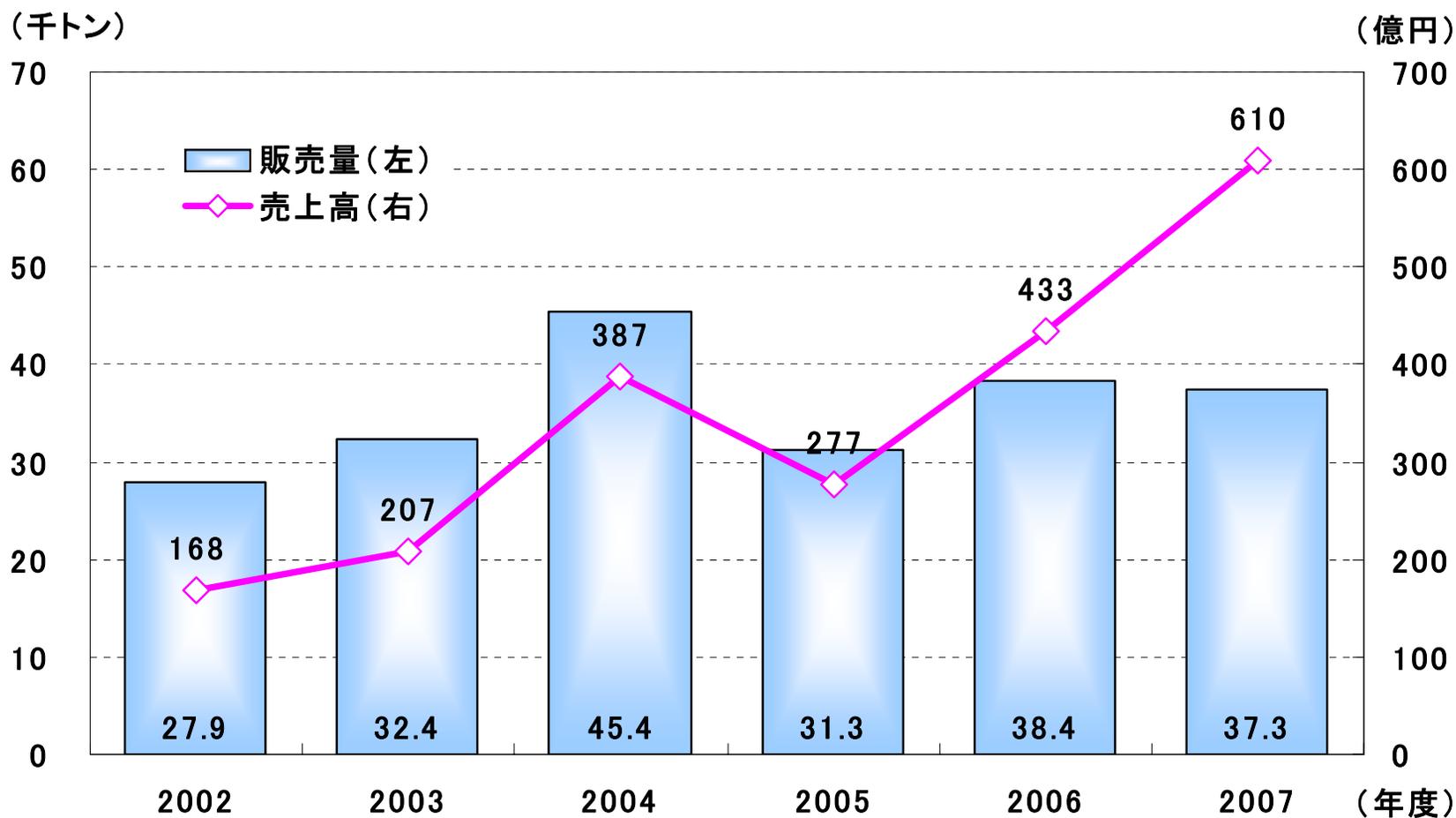


【背景】

- 先進地域・BRICsを問わず、環境・エネルギー分野で必須の投資に「高合金系の高機能材」が不可欠な状況

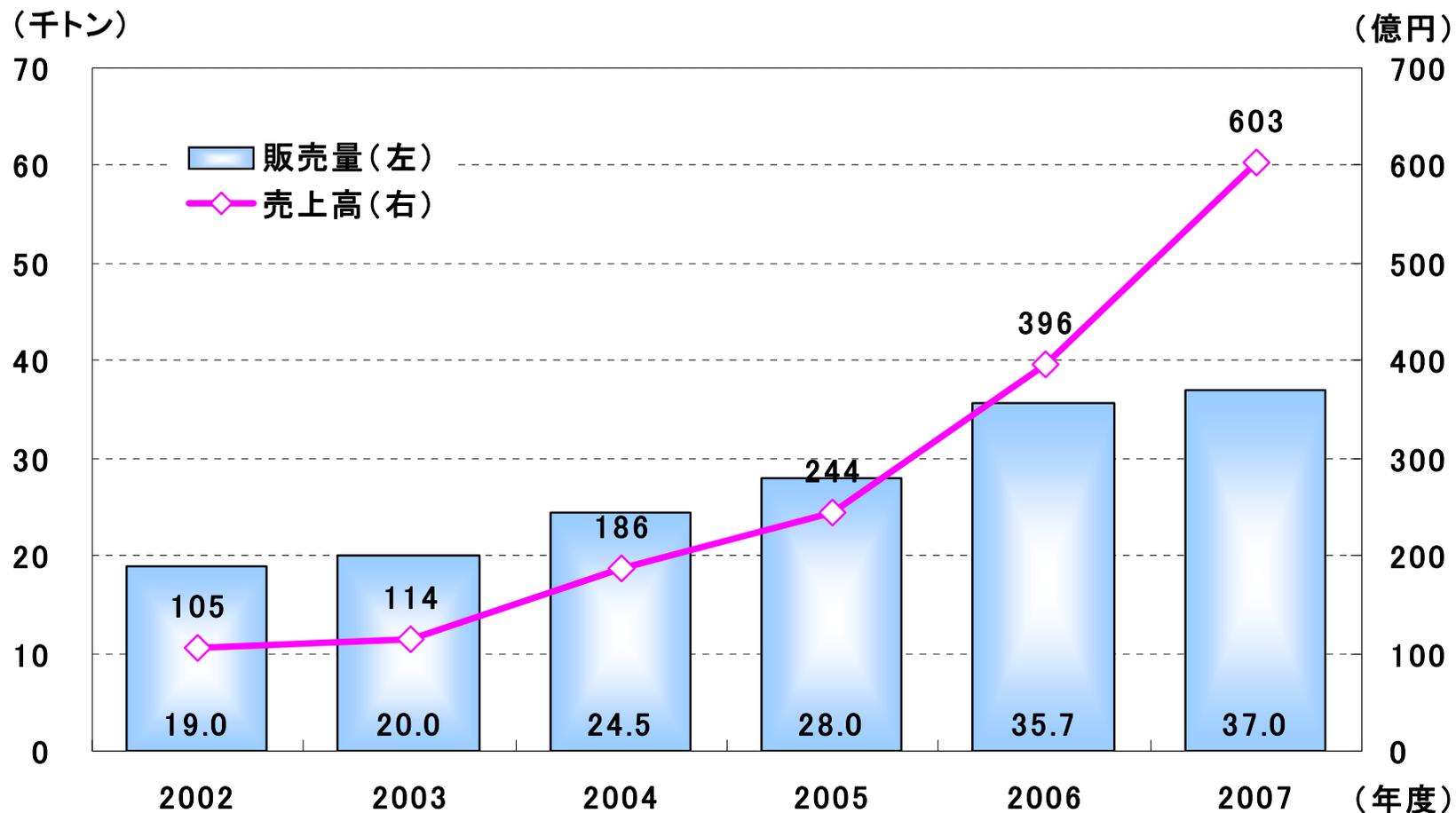
販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

➤2007年度は販売数量微減ながら売上高ベースでは続伸。



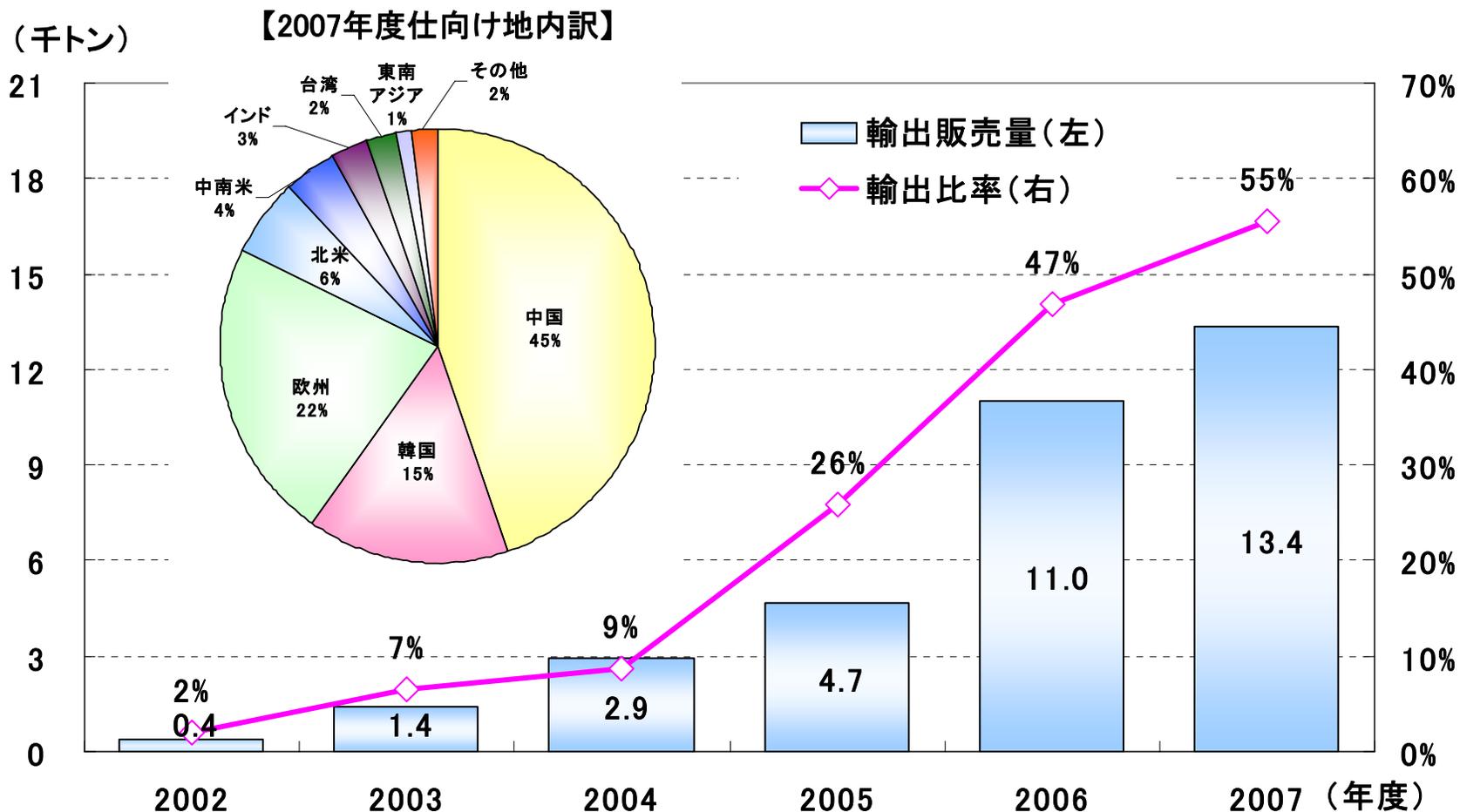
販売量及び売上高 《シャドウマスクを除く高機能材部門》

▶ シャドウマスクを除く高機能材は2007年度も販売数量・売上高ともに続伸。



輸出の販売量及び売上高構成比 《高機能材合計》

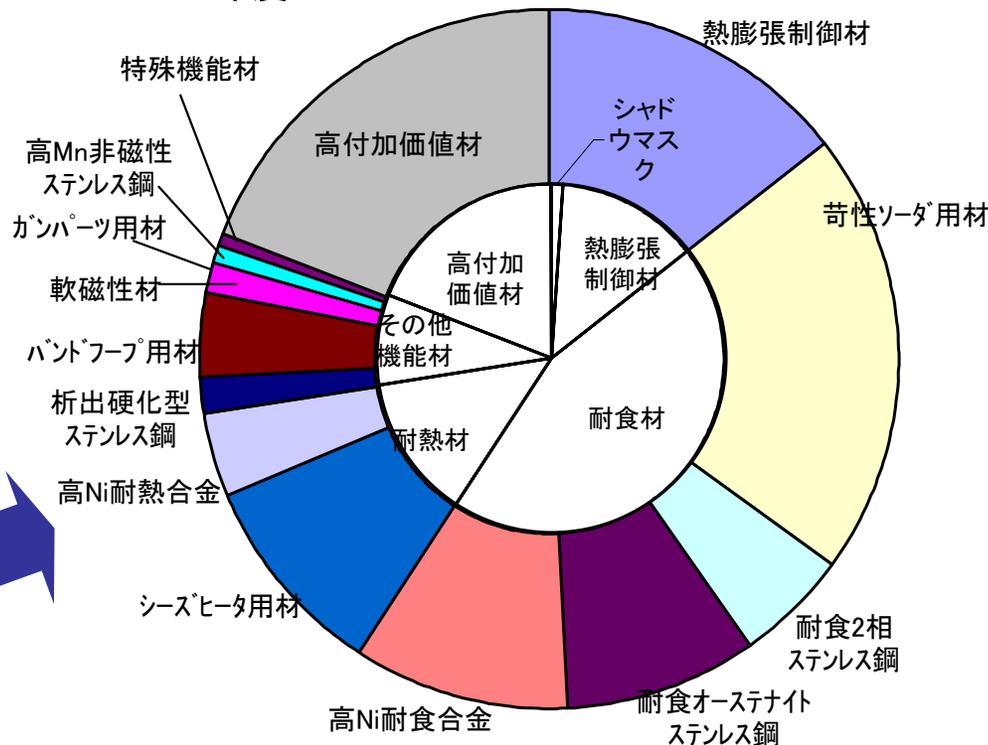
▶ 輸出数量・輸出比率ともに上昇傾向が持続。



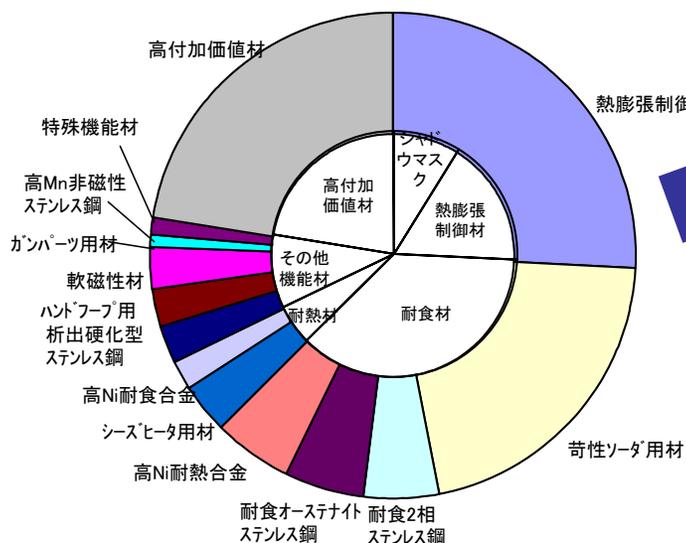
高機能材部門の6分類・用途別分類の構成比(売上高)

- 6分類: 比較的単価の高い耐食・耐熱材の構成比が大幅に上昇
- 用途別分類: 構成比3%以上の用途が7種から9種に増加

＜2007年度＞

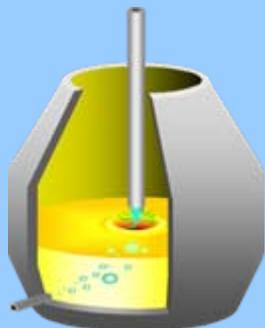


＜2005年度＞



2008年1月よりAVS導入

AOD法 (Argon Oxygen Decarburization)



- [長所] ・酸素吹き込み速度が速く、炭素濃度が高い時の精錬速度が速い。
- [短所] ・炭素濃度が非常に低い時の精錬効率が悪いいため、高品質の高機能材ほど操業が困難で所要時間も長くなる。



真空AOD=AVS (AOD with Vacuum system for Special alloys) の導入



- [特徴] ・AODの長所を活かしつつ短所を補うため、AODに真空機能を付加
- ・炭素濃度が高い間は大気精錬を行ない、炭素濃度が低くなってからは減圧下で、且つ酸素吹精なしで溶鋼中の酸素とスラグ中の酸化物を利用して精錬を行う。

AVS導入による効果

- ① 高機能材(極低炭素仕様が主)の生産が容易になる。
 - ✓ 真空度の幅が広く、様々な種類の高機能材への適用が可能。
 - ✓ 減圧効果により、極低炭素鋼と低窒素鋼の精錬が容易になる。
- ② 操業時間を短縮することでコストダウンを実現する。
 - ✓ 減圧効果により精錬時間短縮(鋼種によっては汎用品並みに)。
 - ✓ 連続鑄造機での多連鑄も可能に。
- ③ 余裕が生じるVODの能力を新製品開発に活かす。
 - ✓ 真空精錬という設備の特徴を活かした特色ある新製品開発を目指す。



高機能材の更なる拡販

本日のアジェンダ

1. 2008年3月期決算サマリー

2. 中期経営計画(2008年4月～2011年3月)

＜参考＞主要データ(連結ベース)

中期経営計画(05～07)のレビュー①

＜企業ビジョン＞

新しい価値の創造に挑戦し、世界の市場で魅力ある『ステンレス特殊鋼メーカー』となる。

＜基本方針＞

内容	レビュー
①高機能材路線の推進による事業構造の变革	<ul style="list-style-type: none">・ステンレス特殊鋼メーカーとしての事業基盤の基礎を確立・需要が急減したブラウン管用以外の高機能材の売上は、ほぼ計画通りに進捗・高機能材メーカーとしての認知度が世界的に高まり、高機能材の輸出比率が50%超に
②安定収益基盤の構築	<ul style="list-style-type: none">・ニッケル価格変動の影響を完全には回避できないものの、高機能材の拡販とサーチャージ制の定着等が収益安定化に寄与
③格付取得を展望し、財務体質を改善	<ul style="list-style-type: none">・2008年3月末で自己資本比率35.7%、D/Eレシオ0.9倍まで改善・2006年2月にJCRの格付を取得、2008年1月にBBB(安定的)へ改善

中期経営計画(05~07)のレビュー②

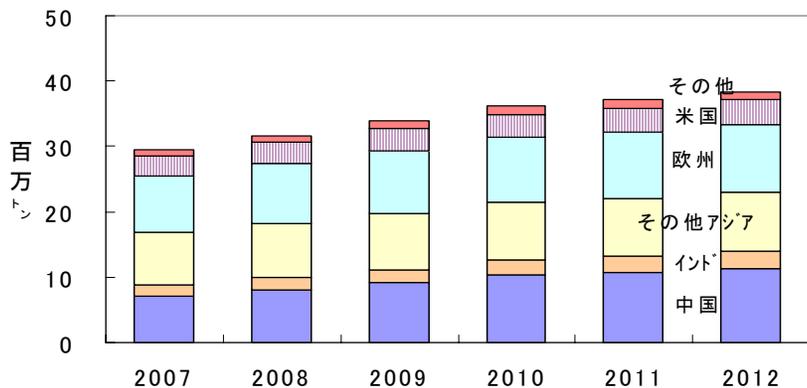
▶高機能材部門売上高比率50%以外の数値目標は達成

	05年度 (億円)	06年度 (億円)	中計目標 07年度 (億円)	07年度 (億円)	達成
売上高	1,490	1,949	1,509	2,487	○
営業損益	133	268	116	311	○
経常損益	107	239	87	293	○
当期純利益	60	153	55	175	○
ROA(%)	8.1	15.0	7.0	16.1	○
自己資本比率(%)	24.2	27.8	30.0	35.7	○
高機能材部門 売上高比率(%)	24.6	27.7	50.0	30.5	×

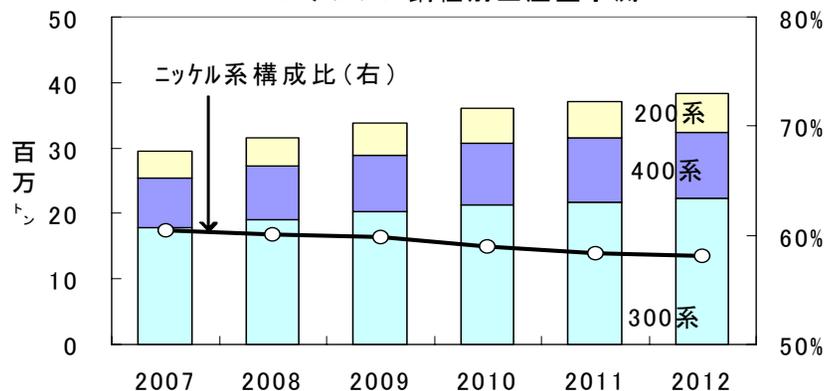
2012年にかけてのステンレス市場を巡る外部環境

- ▶ 中国・インド等アジアの需要の伸びを背景に、世界のステンレス生産量は拡大
- ▶ クロム系へのシフトや200系の増加もあり、ニッケル系全体ではウェイトが低下
- ▶ 中国・欧州メーカー等の生産能力拡大により需給ギャップは拡大傾向

地域別ステンレス粗鋼生産量予測

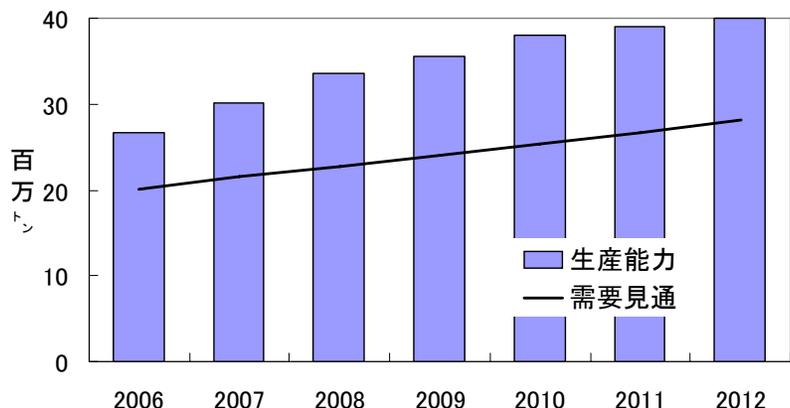


ステンレス鋼種別生産量予測



(上段2図は当社資料等より作成)

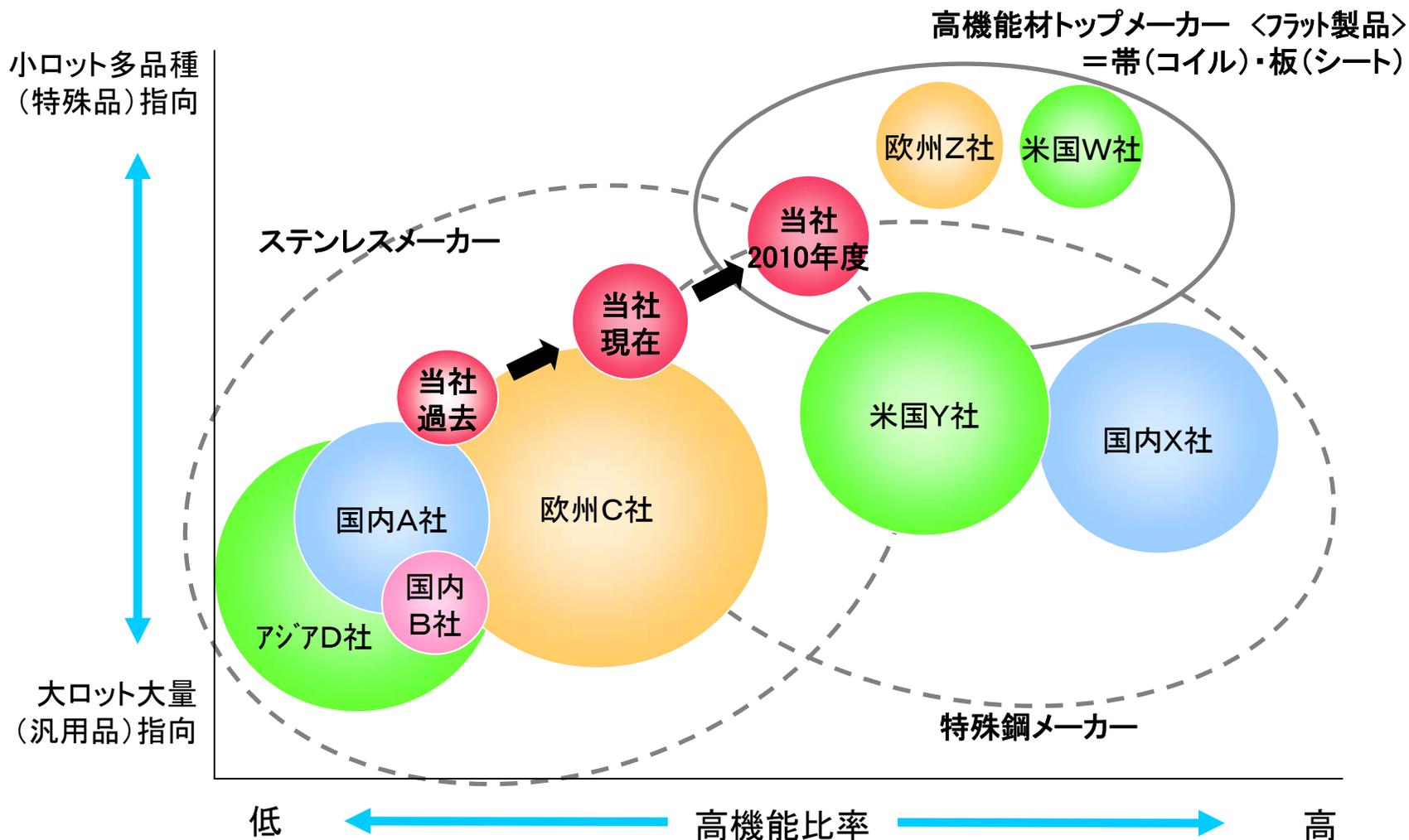
スラブ需給バランス



(ISSF資料より作成)

ステンレス市場(特にニッケル系)は競争が一段と激化

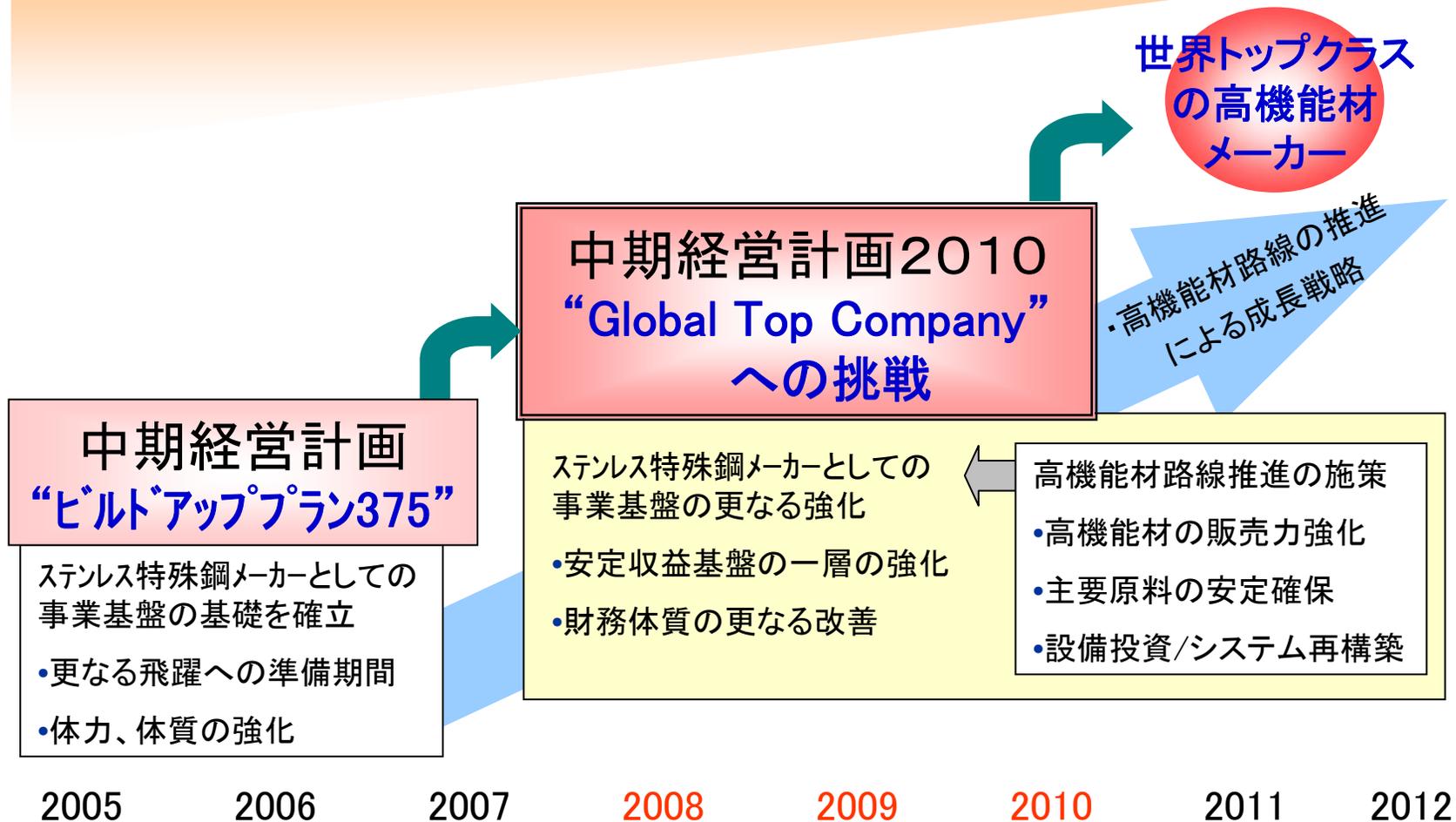
日本冶金工業のポジショニング



(注) 円の大きさは企業規模等をイメージ

新『中期経営計画2010』の位置付け

世界の市場で魅力あるステンレス特殊鋼メーカーとなる



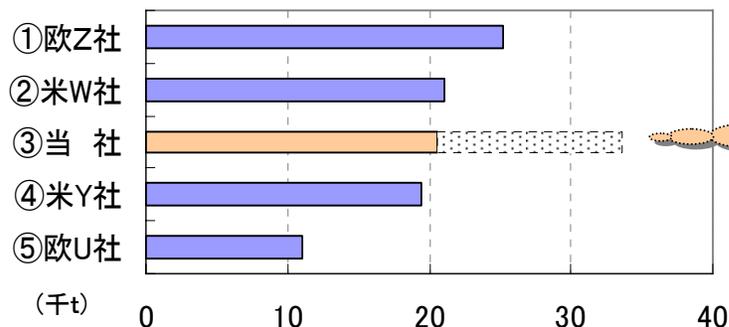
高機能材路線推進の計画

- ▶ コスト競争力・品質・短納期等において世界トップクラスの高機能材メーカーを目指す
- ▶ 高機能材フラット製品において世界シェア10%超（高ニッケル合金では世界トップシェア）

<高機能材世界市場規模（単位：千t、フラット製品に限定）>

	07高機能材 世界市場	07年度当社 販売実績	07年度 当社シェア	2010高機能材 世界市場見通	2010年度 当社販売目標	10年度 目標シェア
耐食材	297	7.8	2.6%	342	23.4	6.8%
耐熱材	40	4.8	12.0%	44	10.0	22.7%
熱膨張材制御	32	4.4	13.8%	27	3.9	14.2%
高強度材	5	1.8	38.1%	5	2.0	37.6%
その他	29	5.3	18.5%	31	6.6	21.6%
合計 (内・高ニッケル合金)	403 (208)	24.1 (20.6)	6.0% (9.9%)	449 (225)	45.9 (33.6)	10.2% (14.9%)

↓
【高ニッケル合金販売量】
(2007年推定値)



2010年度に
33.6千tに拡大

(市場規模・他社数量等は当社推定)

高機能材拡販に向けた取り組み

(1)マーケティング

①拡販分野毎にマーケティング力を強化

～『エネルギー・環境』をキーワードに、特に耐食・耐熱材分野に注力

②グローバル展開の推進

～海外拠点を増強し、現地に根ざした営業を展開

(2)技術改善

①リードタイムの短縮とコスト競争力の強化

②製造可能範囲の拡大(広幅・極厚・品種 など)

技術改善＜生産性向上、コストダウン＞

▶ 新設精錬設備の効果や操業改善等により効率化を推進

◎設備投資

- ・AVSの新設
- ・下工程の改良

◎業務プロセス改革

- ・新システムの導入
- ・操業改善
- ・歩留改善

品質 ⇒ 定評ある水準の維持

リードタイム ⇒ 平均15%程度の短縮

納期の短縮、在庫の圧縮、資産効率の改善

コストダウン ⇒ 重点鋼種は15%削減

コスト競争力の強化

主要原料の安定確保に向けた取り組み

▶原料資材の長期安定調達

＜昨今の資源環境＞

- ・資源ナショナリズムの強まり
- ・資源メジャーの寡占化
- ・鉱石品位の低下
- ・コストアップ 等



▶原料調達の多様化

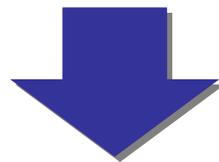
⇒ 調達『ルート』と調達『品種』の拡大

▶多様な鉱石等を活用したFe-Ni生産体制の構築

設備投資／システム再構築

▶高機能材拡販・環境関連・システム再構築等が中心

3年間で約240億円の設備投資を計画



- | | | |
|-------------------|-------|---|
| ①高機能材競争力強化・能力増強投資 | 65億円 | ← 高機能材拡販への対応
～製品の多品種・少ロット化・薄肉化・広幅化に備えた「下工程」の改良 |
| ②環境関連投資 | 15億円 | ← CO2削減等への対応 |
| ③システム再構築投資 | 20億円 | ← 業務プロセスの改革 |
| ④基盤整備・関係会社での投資等 | 140億円 | |

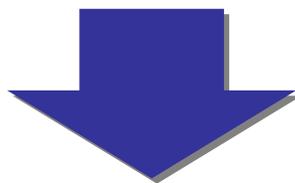
『中期経営計画2010』の経営目標

	05年度 (億円)	06年度 (億円)	07年度 (億円)	10年度 計画 (億円)
売上高	1,490	1,949	2,487	2,380
営業損益	133	268	311	210
経常損益	107	239	293	180
当期純利益	60	153	175	105
高機能材部門 売上高比率(%)	24.6	27.7	30.5	50.0
ROA(%)	8.1	15.0	16.1	10.0
自己資本比率(%)	24.2	27.8	35.7	40.0

(注) ROA=(営業利益+受取利息・配当金)／期初・期末平均総資本

配当方針

- ▶ 自己資本比率は30%半ばであり、事業の性質上財務体質強化が引き続き重要な課題
- ▶ 内部留保・投資・配当等のバランスを取りつつ、安定的に株主還元を実施



- 事業基盤の整備に必要な投資や業績見通しなどを考慮しつつ、更なる財務体質の強化も図りながら、安定的に配当を実施することを基本方針とする。
- 利益配分については、当社事業の性質上、当面財務体質の強化にウェートを置くこととし、連結配当性向については、『中期経営計画2010』の最終年度である2010年度において、15～20%の水準を目処にする。

主要データ

1. 2008年3月期決算サマリー

2. 中期経営計画(2008年4月～2011年3月)

<参考> 主要データ(連結ベース)

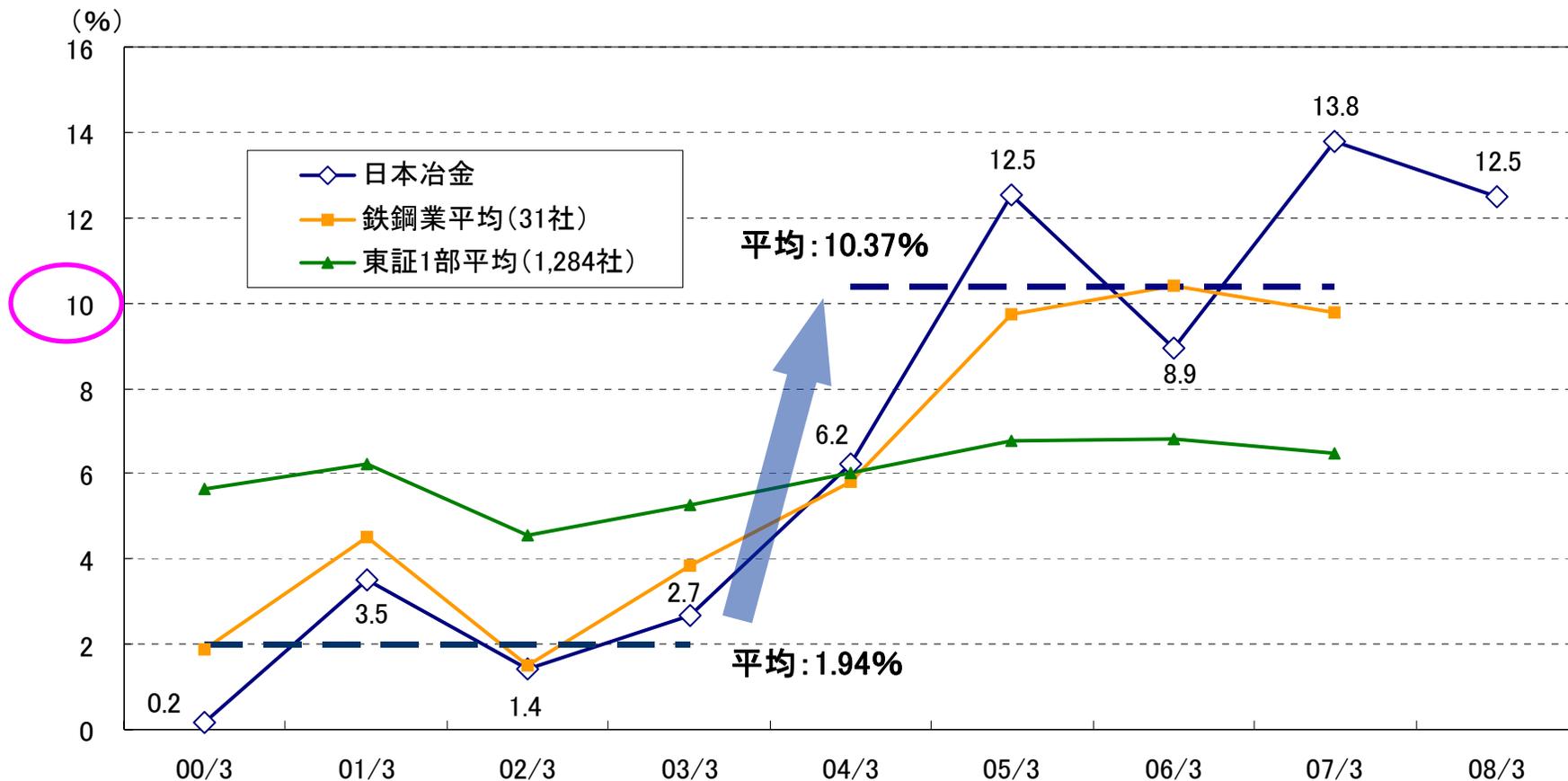
売上高・営業利益

▶ 売上高・営業利益ともに増加傾向。



売上高営業利益率

▶ ニッケルサーチャージの定着などにより大幅な改善



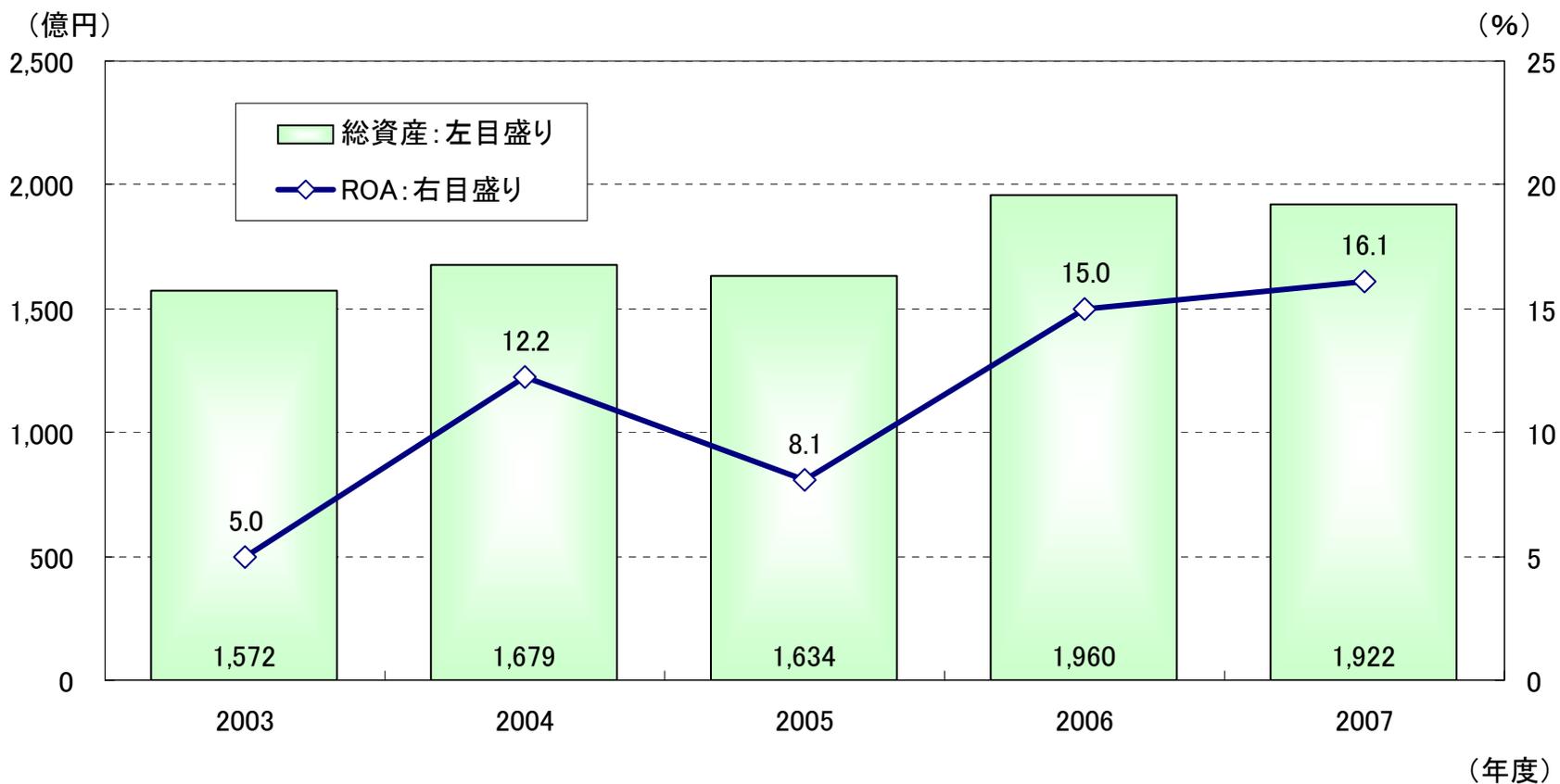
(出所)日経AMSUS。

(注1)直近8期の売上高営業利益率がある企業のみ。(注2)鉄鋼業、東証1部平均は単純平均。

(年/月期)

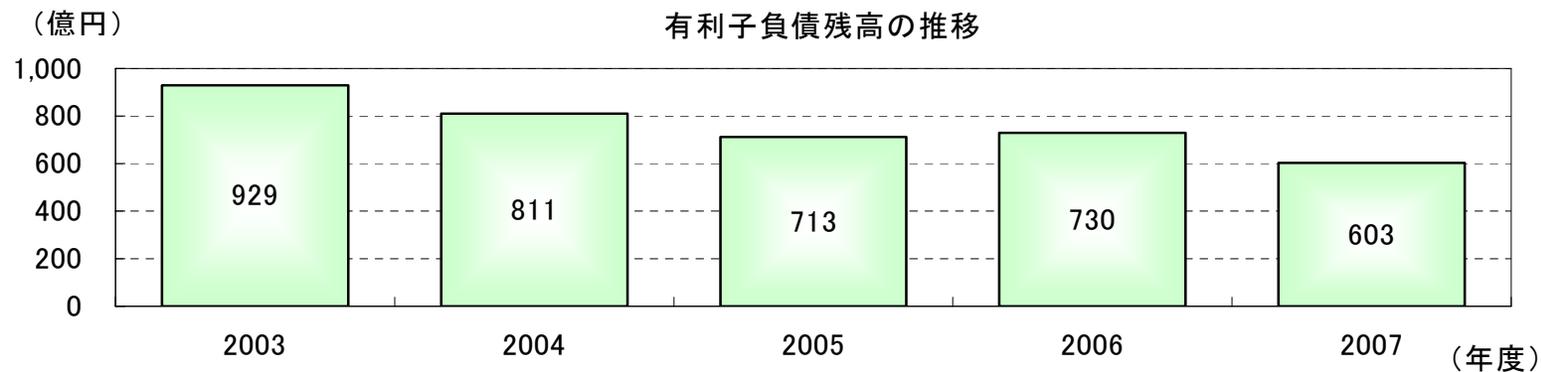
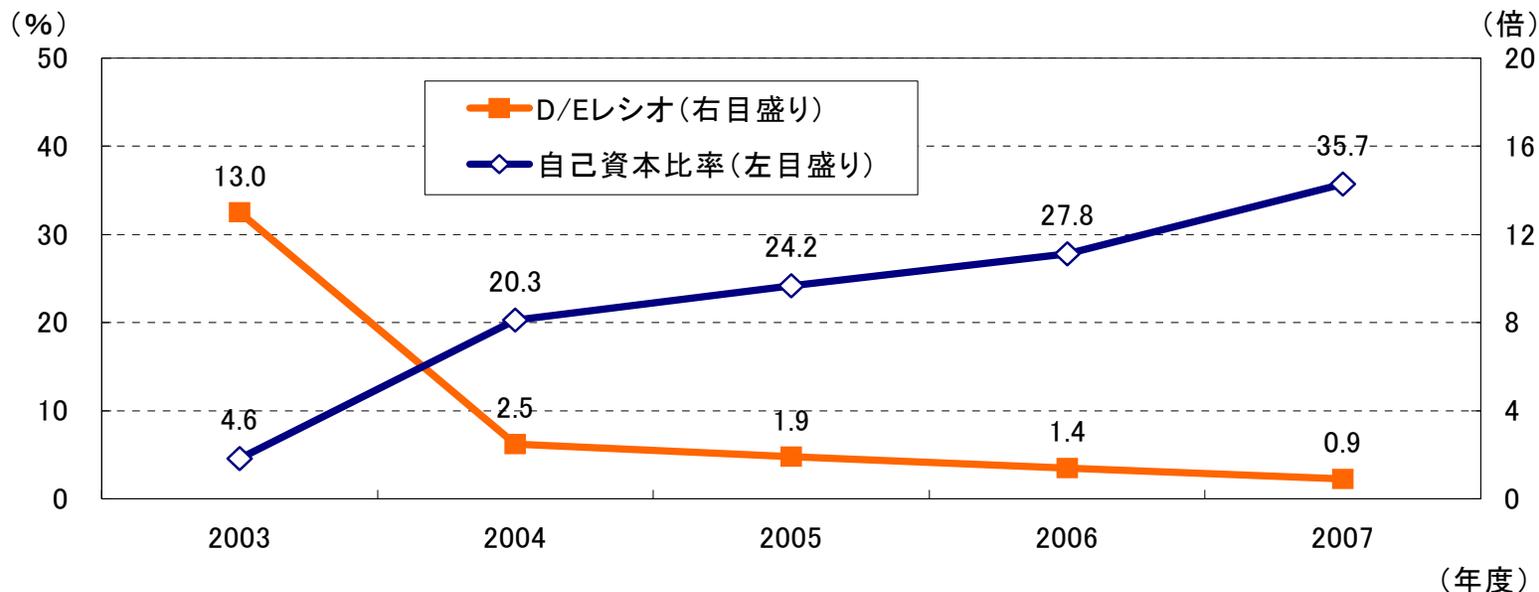
総資産額・ROA

▶ ROAは中計目標の7%を大幅に上回る



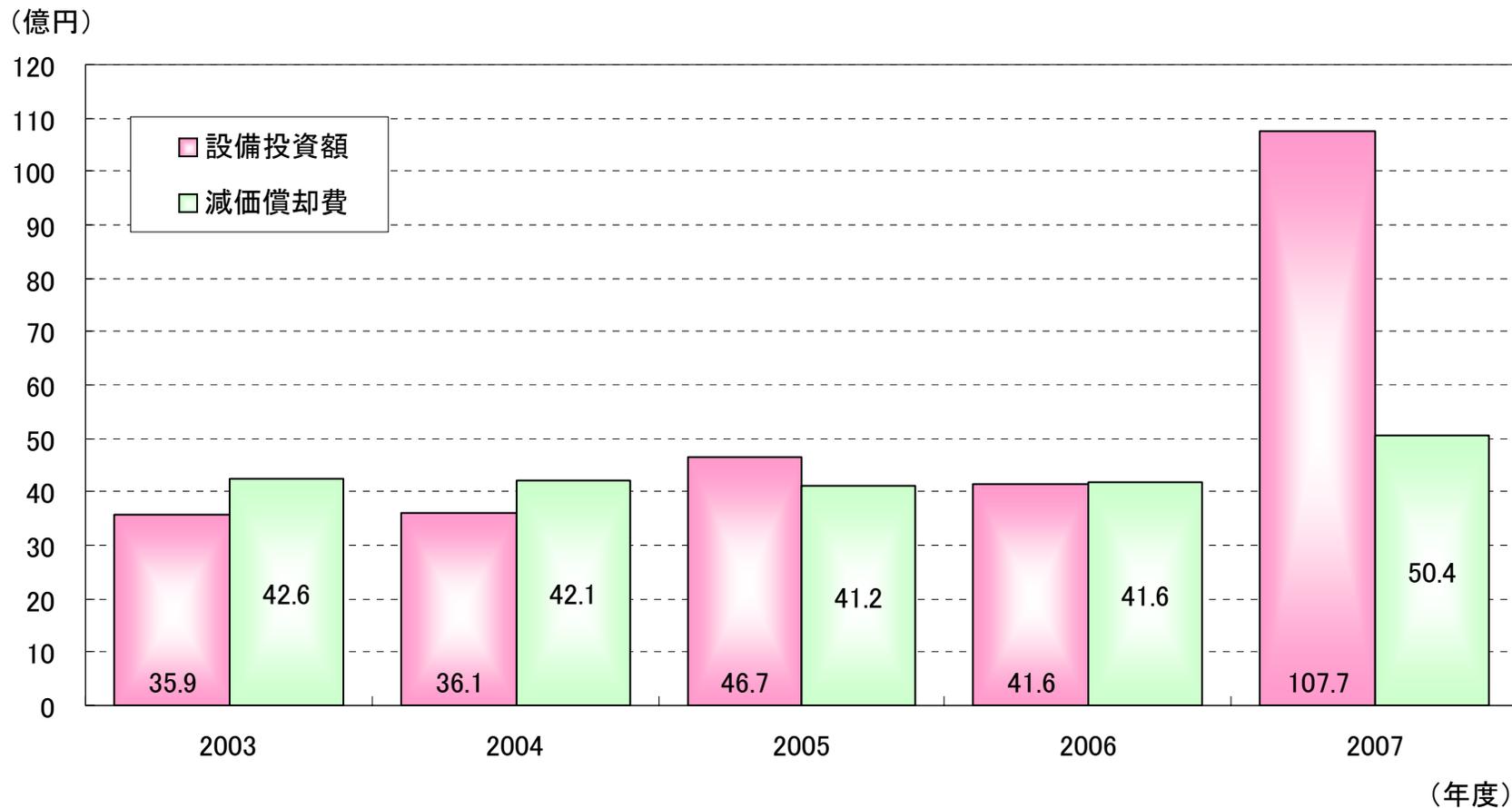
有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ

▶ 自己資本比率も中計目標の30%を達成



設備投資(連結ベース)

- 2006年度までは原則として減価償却額以下に投資規模を限定
- 2007年度は高機能材対応のために投資規模を拡大



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ
～そして世界トップクラスの高機能材メーカーへ

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社IR事務局

Tel: 03-3273-3613

E-Mail: irjimu@nyk.co.jp

